

授業科目 比較文化学特論 I	単位 2 単位
授業担当者 庄司 博史	授業期間 前期
授業の題目と概要 <p>「移民言語と地域少数言語－国家と政策とのかかわりから」</p> <p>少数言語は一般に話者数のみではなく、被支配性、被抑圧性によっても規定されるものとして理解されている。通常、地域少数言語、先住民言語が少数言語とみなされ、その擁護のための理論などが整備されている。しかし話者は同様に被支配性、被抑圧性をおびながら移民言語はその範疇にふくまれない。本講義では少数言語の理論から政策までの検証をつうじ、移民言語の処遇の可能性を再検討する。</p>	
授業の内容と計画 <p>講義ではおもに以下のようなトピックをあつかう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少数民族、少数言語の概念と時代的背景</li> <li>・少数言語政策、言語権、危機言語論、言語運動 言語イデオロギー</li> <li>・地域言語と移民言語</li> <li>・移民研究、移民言語研究</li> <li>・移民言語政策 母語教育と言語サービス</li> </ul> <p>受講者は、前もって特定の少数言語（話者）の社会的な状況に関しある程度の知識をもっておくこと。</p>	
使用する参考書、参考論文等 真田信治・庄司博史編『日本の多言語社会』岩波書店 2005 『ことばと社会 12号』（特集 移民と言語②）三元社 2010	
成績評価基準 成績評価は小レポートと発表によっておこなう。	
その他の留意事項 実施時期：2011年6月13、14、15、20、21日の11時～16時30分 <p style="text-align: right;">(途中12時30分～13時30分休憩)</p>	

